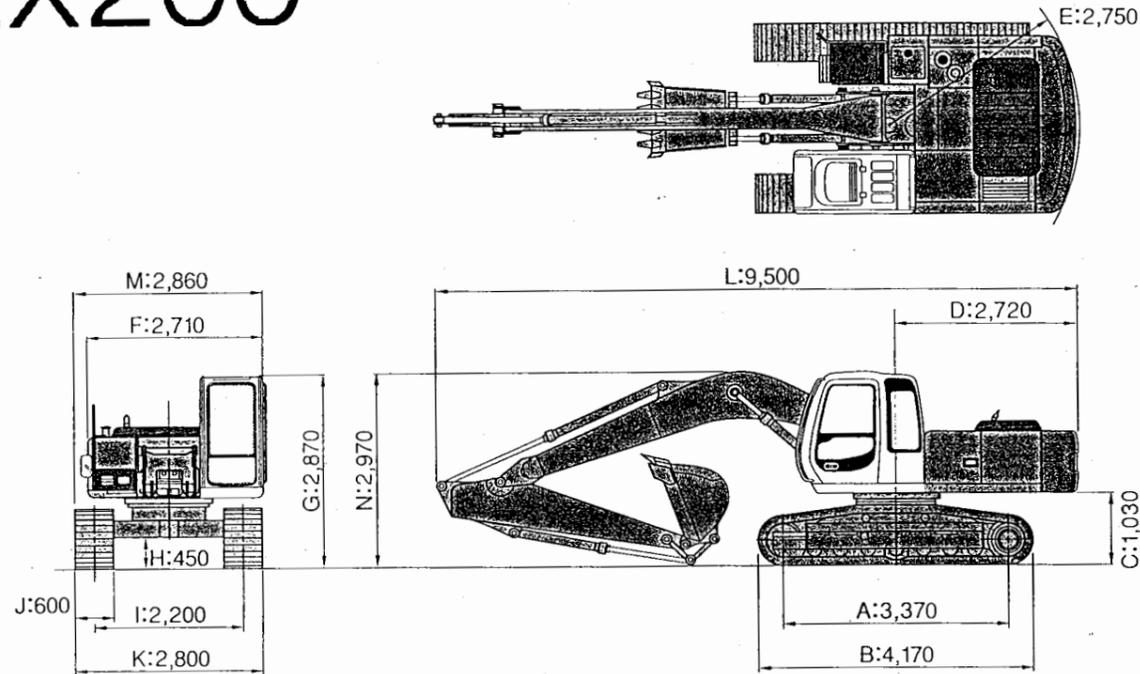


EX200

単位:mm

HITACHI

■寸法図



<注>図は、EX200-5です。

■寸法

単位:mm

	EX200-5HG EX200LC-5HG HGタイプ	EX200-5 EX200LC-5	EX200SS-5 EX200LCSS-5 SS仕様	EX210H-5 EX210LCH-5 H仕様	EX210K-5 EX210LCK-5 K仕様	
					基本	ハイグレード
A. タンブラ中心距離			3,370	3,660		
B. クローラ全長			4,170	4,460		
*C. 旋回体後部下端高さ			1,030			
D. 後端長さ			2,720			
E. 後端旋回半径			2,750			
F. 旋回体全幅			2,710			
G. キャブ高さ			2,870			3,000
*H. 最低地上高			450			
I. トラックゲージ幅			2,200	2,390		
J. シュー幅			600			
K. クローラ全幅			2,800	2,990		
L. 輸送時全長			9,500			9,510
M. 輸送時全幅			2,860	2,990		
N. 輸送時全高			2,970			3,020

<注>* : シューラ幅高さを含まず。
●: 各機種の標準装備装着時の数値です。

■各種バケット

○: 一般掘削 ○: 軽掘削 □: 積込作業用 ●: 岩掘削用 ◊: 法面作業用 ×: 使用不可

バケット	容量(m³)		幅(mm)		爪数(本)	EX200-5HG EX200LC-5HG HGタイプ	EX200-5 EX200LC-5	EX200SS-5 EX200LCSS-5 SS仕様	EX210H-5 EX210LCH-5 H仕様	EX210K-5 EX210LCK-5 K仕様
	山積 新JIS(旧JIS)	平積	サイドカッタ 無し	サイドカッタ 含む		標準・センサ付アーム 2.91m	ショートアーム 2.22m	標準アーム 2.91m	標準アーム+EX アーム 1.5m	Hアーム 2.91m
ホウバケット	0.51(0.45)	0.39	720	850	3	○	○	○	○	○
	0.80(0.70)	0.58	1,030	1,140	5	○	○	○	○	○
	0.91(0.80)	0.66	1,150	1,280	5	○	○	○	○	○
	1.10(0.90)	0.77	1,330	1,460	6	○	○	○	○	○
ホウバケット 補強付	1.20(1.00)	0.85	1,450	—	6	○	○	○	○	○
	0.80(0.70)	0.58	1,030	1,140	5	○	○	○	○	○
	*1 0.80(0.70)	0.58	1,030	1,140	5	○	○	○	○	○
リッパバケット	0.80(0.70)	0.58	1,030	1,140	5	○	○	○	○	○
	*2 0.80(0.70)	0.58	1,030	1,140	5	○	○	○	○	○
三本爪リッパ	0.91(0.80)	0.66	1,150	1,280	5	○	○	○	○	○
法面バケット	0.60(0.50)	—	800	—	3	○	○	○	○	○
梯形バケット	—	—	—	—	1	○	○	○	○	○
法面バケット	—	—	1,100×2,200	—	—	○	○	○	○	○
梯形バケット	0.40	—	側板傾斜角45度	—	3	○	○	○	○	○
グラブショベル	0.60	—	940(センタープル式)	—	8	○	○	○	○	○
バケット	0.60	—	870(シェルブッシュ式)	—	8	○	○	○	○	○

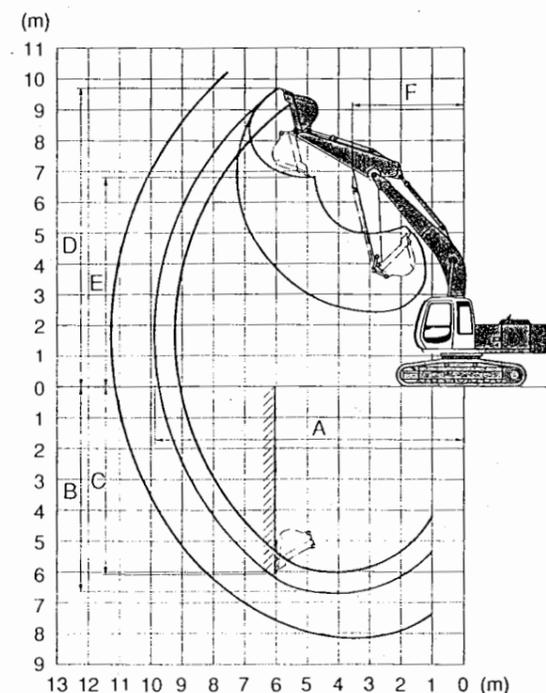
<注>*1: 横ピンタイプ *2: H補強バケット
●: EXアーム: エクステンションアーム
●: Hアーム: ヘコミ防止プレート、角材付き

■仕様

仕様	単位	EX200-5HG EX200LC-5HG HGタイプ	EX200-5 EX200LC-5	EX200SS-5 EX200LCSS-5 SS仕様	EX210H-5 EX210LCH-5 H仕様	EX210K-5 EX210LCK-5 K仕様	
						基本	ハイグレード
運転質量	kg	18,900	18,800	18,900	19,800	19,900	20,700
		19,400	19,300	19,400	20,300	20,400	21,200
機体質量	kg	14,800	14,700	14,800	15,400	15,500	16,200
		15,300	15,200	15,300	15,900	16,000	16,700
標準バケット容量							
山積容量	新JIS m³	0.80(補強)		0.80	0.80(H補強)		0.80(フック付補強)
	旧JIS m³	0.70(補強)		0.70	0.70(H補強)		0.70(フック付補強)
平積容量	m³	0.58(補強)		0.58	0.58(H補強)		0.58(フック付補強)
標準シュー幅	mm	600グローサシュー			600強化型グローサシュー		
性能							
接地圧	kPa(kg/cm²)		42(0.43)		44(0.45)		46(0.47)
			40(0.41)		42(0.43)		44(0.45)
旋回速度	min⁻¹(rpm)			13.9			
走行速度 高/低	km/h			5.5/3.8			
登坂能力	%(度)			70(35)			
最大掘削力				通常時 / パワーディギング時			
新JIS	バケット kN(kgf)			127(13,000) / 134(13,700)			
	アーム kN(kgf)			93(9,500) / 99(10,100)			
旧JIS	バケット kN(kgf)			113(11,500) / 120(12,200)			
	アーム kN(kgf)			89(9,100) / 94(9,600)			
エンジン							
名称				いすゞA-6BG1T			
形式				ターボ付直接噴射式			
定格出力	kW/min⁻¹(PS/rpm)			99/1,950(135/1,950)			
総排気量	L			6,494			
油圧装置							
油圧ポンプ形式				可変容量形ピストン式×2 歯車式×1			
主リリーフ弁セット圧	MPa(kg/cm²)			34.3(350)			
旋回油圧モータ形式				定容量形ピストン式×1			
走行油圧モータ形式				可変容量形ピストン式×2			
駐車ブレーキ形式(旋回・走行)				機械式			
油類の容量							
燃料タンク容量	L			310			
作動油タンク容量	L			200/135(基準レベル)			
エンジンオイル交換量	L			25.0			

<注>* 単位は、国際単位系によるSI単位表示。()内は、従来の単位表示を併記したものです。
●: バケット容量と最大掘削力は新JISと旧JISを併記しました。

■作業範囲図



■作業範囲

単位:mm

仕様	EX200-5 EX200LC-5		EX200SS-5 EX200LCSS-5 SS仕様
	ショートアーム	標準アーム	標準アーム+EX アーム 1.5m
A. 最大掘削半径	2,220	2,910	3,410
*B. 最大掘削深さ	9,250	9,910	11,260
*C. 最大垂直掘削深さ	5,140	6,050	7,540
*D. 最大掘削高さ	9,170	9,600	10,220
*E. 最大ダンプ高さ	6,390	6,780	7,410
F. フロント最小旋回半径	3,530	3,540	3,540

仕様	EX200-5HG EX200LC-5HG HGタイプ	EX210H-5 EX210LCH-5 H仕様	EX210K-5 EX210LCK-5 K仕様
	標準・センサ付アーム 2.91m	Hアーム 2.91m	配管座付補強アーム 2.91m
A. 最大掘削半径	2,910	2,910	2,910
*B. 最大掘削深さ	6,670	6,670	6,670
*C. 最大垂直掘削深さ	6,050	6,050	6,050
*D. 最大掘削高さ	9,600	9,600	9,600
*E. 最大ダンプ高さ	6,780	6,780	6,780
F. フロント最小旋回半径	3,540	3,540	3,540

<注>* : シューラ幅高さを含まず。
●: EXアーム: エクステンションアーム
●: Hアーム: ヘコミ防止プレート、角材付き

NEW
Landy V / Landy KID / Landy MARCCINO

スライドアーム仕様機

**EX60 EX100 EX120 EX200
EX30 EX35 EX55UR EX75UR EX135UR**

もっと深く、もっと広く、グーンと伸びる腕。

標準アームに比べ3クラス上の作業範囲を実現。

機械の大きさに制限を受ける狭い現場での建築基礎工事、上下水道の立坑掘削や法面作業、河川の浚渫など、幅広い作業に活躍するスライドアーム仕様機シリーズ。アームスライド部はねじれに強いボックス構造、レールサポートは作業時のガタつきの少ないクロスサポートタイプを採用、ガタの調整も容易に行なえます。



写真はEX130K基本タイプ

HITACHI

スムーズに、キレイに、スピーディに

深く掘削できるのが、スライドアームならではの長所。アームをスライドさせるだけで、たて穴掘削作業が効率良く行なえます。

簡単なアームスライド操作

アームスライド操作はペダルにより容易に行なえます。また、クッション機構付きのスライドシリンダによりストロークエンドでのショックを吸収します。



A:アーム伸ばし

B:アーム縮み

ガタつきを押さえるクロスサポート (EX30-2/EX35-2は除く)

アームスライド部にクロスサポートタイプを採用、作業時のガタつきを少なくし、ガタの調整も容易にしました。



小旋回機仕様

小回りの効く本体にワイドな作業範囲を兼ね備えたマルチーノシリーズ。

	後端旋回半径	フロント最小旋回半径
EX55UR	1,050 mm	1,200 mm(側溝掘り仕様)
EX75UR	1,140 mm	1,460 mm(側溝掘り仕様)
EX135UR	1,370 mm	2,170 mm(モノアーム仕様)

※EX55UR/EX75URはバケット「距離表示」、「フロント範囲制限」、「干渉防止」のシステムを装備しています。

A T T A C H M E N T

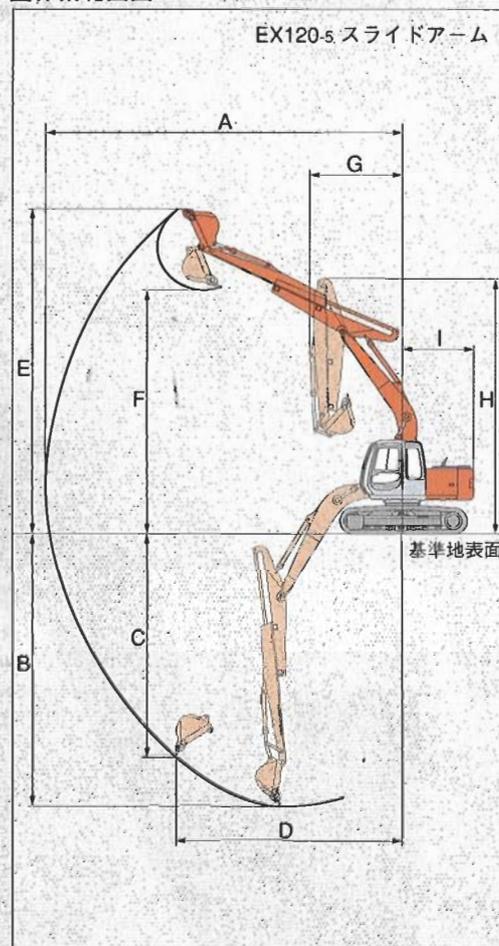
仕様

	EX60-s (EX70LCK 基本タイプ)	EX100-s	EX120-s (EX130K-s 基本タイプ)	EX200-s (EX210K-s 基本タイプ)	
型式	S-SA60	S-SA100	S-SA120	S-SA200	
アームスライド量	mm 1,770	2,000	2,000	2,300	
運転質量	kg 6,970(7,520)	11,600	12,800(13,300)	20,800(21,900)	
バケット容量(新JIS)	m ³ 0.2(0.24)	0.3	0.4	0.51	
作業範囲	A 最大掘削半径	mm 8,520	9,790	10,300	12,200
	B 最大掘削深さ	mm 6,640	7,420	7,870	9,380
	C 最大垂直掘削深さ	mm 5,460	6,570	6,780	8,100
	D 最大垂直掘削深さ時半径	mm 4,990	5,490	6,110	7,000
	E 最大掘削高さ	mm 8,420	9,150	9,590	10,100
	F 最大ダンプ高さ	mm 6,390	6,790	7,230	7,420
	G フロント最小旋回半径	mm 2,150	2,650	2,610	3,820
	H フロント最小旋回時高さ	mm 6,200	6,760	7,020	8,200
	I 後端旋回半径	mm 1,750	2,130	2,130	2,940
輸送時全長	mm 6,730	7,780	8,170	10,200	
輸送時全高	mm 2,590	3,030	2,910	3,030	

仕様

	EX30-2	EX35-2	EX55UR 側溝掘り仕様	EX75UR-3 側溝掘り仕様	EX135UR モノアーム仕様	
型式	-	-	S-SA55	S-SA75	S-SA100	
アームスライド量	mm 1,000	1,000	780	1,000	2,000	
運転質量	kg 3,050	3,230	5,900	8,400	13,900	
バケット容量(新JIS)	m ³ 0.08	0.08	0.17	0.24	0.3	
作業範囲	A 最大掘削半径	mm 5,715	6,065	6,760	7,620	10,000
	B 最大掘削深さ	mm 3,865	3,960	5,060	5,560	7,450
	C 最大垂直掘削深さ	mm 2,940	3,480	3,650	4,130	6,700
	D 最大垂直掘削深さ時半径	mm 3,835	3,690	4,710	5,210	5,800
	E 最大掘削高さ	mm 5,345	5,920	7,240	8,270	10,700
	F 最大ダンプ高さ	mm 3,945	4,540	5,505	6,220	8,250
	G フロント最小旋回半径	mm 1,920	1,905	1,200	1,460	2,170
	H フロント最小旋回時高さ	mm 4,240	4,530	5,320	5,860	7,370
	I 後端旋回半径	mm 1,370	1,390	1,050	1,230	1,370
輸送時全長	mm 5,465	5,700	5,755	6,450	8,300	
輸送時全高	mm 2,350	2,350	2,680	2,700	3,060	

作業範囲図



● 正しい操作と、周囲への思いやりは、安全作業の第一歩です。 ●

日立建機株式会社
 東京都千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)
 ☎ダイヤルイン(03)3245-6363 CS本部

●お問い合わせは…

●このカタログに記載した内容は、予告なく変更させていただくことがあります。
 ●本機のご使用にあたっての注意事項は、取扱説明書をご覧ください。
 ●このカタログに掲載した写真は、カタログ撮影用の姿勢です。実作業で機械を離れる場合には必ずフロントアタッチメントを接地させ、安全作業に心掛けてください。また、稼働写真は、一部特別仕様が含まれている場合もあります。